

平和条約

松浦 純子

平和条約とは戦争状態を終結させるための条約で、日本人の多くはサンフランシスコ平和会議とそこで締結された平和条約を思い浮かべるのではないだろうか。この会議は一九五一年九月上旬に五十二か国が参加して開かれ、日本は全参加国のうちソ連、ポーランド、チェコスロヴァキアを除く四十八か国と平和条約に署名した。会議に参加したが調印しなかった国、会議に招待されなかった国などいくつかの国とは平和条約締結の宿題を残した会議だったが、近隣の社会主義国の成立や朝鮮戦争の勃発などが、この平和条約の締結と日本の独立・主権回復を後押しした。

さて、平和条約とはいっ頃から存在したのだろうか。記録として残る世界最古の平和条約は紀元前十三世紀中頃、アナトリアのヒッタイト王国のハットウシリ三世とエジプト第十九王朝のラムセス二世が結んだ条約である。両国は地中海東岸の覇権をめぐって争い、シリアのカデシユで戦った。この地域は地中海への出入り口として、また、エジプトとメソポタミアを結ぶ通路として海陸交通の要衝であり、地の利があるとこらだ。

カデシユの戦いで勝敗はつかなかったが、両国は終戦に合意し、領土不可侵、相互軍事援助などを取り決めた。ヒッタイト王国の首都ハットウシヤからはメソポタミアの文字である楔形文字で、この条約の内容を刻んだ粘土板が発見され、エジプトでも同じ内容の碑文が、ラムセス二世をまつるいくつかの神殿に、エジプトの文字であるヒエログリフで刻まれているのを見ることができる。

もちろんこれ以降の全ての戦争が、敗戦国も存続させる平和条約締結で終わったわけではないが、三千五百年以上も前に考え出されたこの戦争の終結方法は画期的だったと思う。残念ながら二十世紀にはアジアのベトナム共和国、アフリカのビアフラ共和国、ヨーロッパのユーゴスラヴィア連邦共和国などが戦争によって消滅した。

ウクライナに早く平和がもたらされ、領土削減が少しでも免れることを願っている。